

富士市CNF関連産業推進構想「第2期アクションプラン」概要

▶ 時代や社会の潮流・情勢

- ・国内の総人口の減少、高齢者人口割合の増加と生産年齢人口・若年層人口割合の減少
- ・新型コロナウイルス感染症拡大による消費低迷、事業活動の自粛、雇用の悪化など
- ・SDGsの達成やカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けた持続可能な社会の構築に向けた取組
- ・デジタルトランスフォーメーション(DX)、オンライン化やテレワーク等による働き方改革などデジタル化社会への動き
- ・都会から地方へ、大企業をはじめ中小企業やベンチャー等、新たな人流の動き

▶ 国や他地域等の動向

- ・バイオ戦略2020
- ・2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略
- ・NEDO 2019年度成果報告書
「セルロースナノファイバーの市場及び技術動向調査」
CNFの最新の市場動向や技術動向の調査を行い、課題などを整理するとともに、今後の技術開発に向けた指針となるロードマップを策定
2030年のCNF複合材料市場創造目標を2兆円／年を明記

CNFが明記、関連した多数の戦略や報告書等が公開



▶ 産業界、企業等の研究開発・製品化等の動向

- ・ナノセルロースの実用化および産業規模の拡大を図るため、2020年4月にナノセルロースジャパン(NCJ)を設立。産学官連携による技術開発、会員企業間の協業推進、国際標準化活動を行い、日本の産業競争力を高めるための活動を展開
- ・水系用途では複数の実用化や製品化が見られる一方、市場規模の大きい複合材や構造材用途は、現状においても実証等が進められている段階



▶ 富士市の動き・市内企業の動向

- ・2020年7月「SDGs未来都市」に選定。同年9月に「富士市SDGs未来都市計画」を策定、CNFを経済側面における先導的な取組に位置づける。
- ・「富士市CNF関連産業創出事業」(委託事業)や産学連携CNFチャレンジ補助金などの活用もあり、徐々にではあるが市内企業の実用化、製品化が進みつつある。

産学連携CNFチャレンジ補助金交付件数

年度	2016	2017	2018	2019	2020
交付件数	1	0	2	3	6

▶ アクションプラン（第1期：2019～2021年度）の進捗

富士市CNFプラットフォームの活動報告(資料No.1)に示すとおり、会員等の取組ステージに応じた事業を実施
アクション1：各種セミナーの開催、ウェブサイト作成・運用、会報紙・パンフレット制作・発行、普及啓発講座等
アクション2：サプライヤー×ユーザー、研究者×企業などのマッチング、日常的に企業・研究機関等との間をつなぐ
アクション3：「富士市CNFプラットフォーム」…2019年11月に設立し、各種事業を展開・実施する場
※富士市単独事業の他、静岡県・富士工業技術支援センター・静岡県CNF-CDなどと連携し事業を進めている

▶ 市内企業の取組

機能、高付加価値な機能性用途を中心に、市内企業の実用化、製品化の事例が出てきている。



富士市CNFブランド認定
(第1期)認定製品

▶ 推進構想の成果指標の達成状況

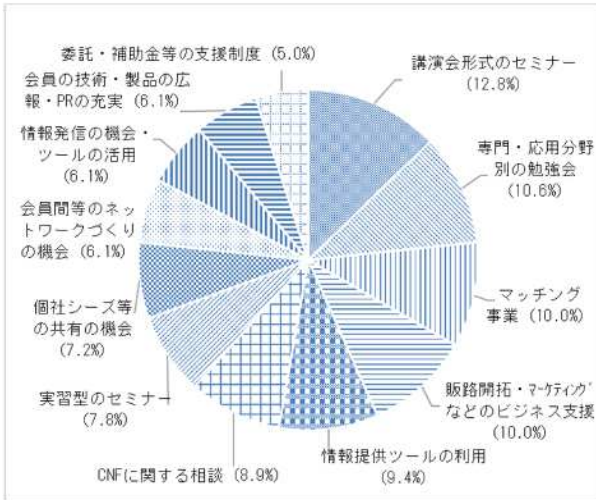
方針	指標	基準値	中間値 2024年	目標値 2030年	現状値 2020fy末
1 CNFの理解促進	市が主催するセミナーや研修事業への参加延べ人数	70人(2017fy)	600人	1,200人	368人
2 CNFの活用促進	CNF関連補助金の活用件数	0件(2017fy)	5件	10件	6件
3 CNF・地域産業の拠点とネットワーク形成	プラットフォームへの参加団体数	—	40団体	80団体	124団体
4 CNFの事業化推進	CNFを活用し、製品化した市内事業所数	1社(2017fy)	10社	20社	10社
5 CNFのまちブランド育成	活気がある工業都市だと思ふ市民の割合	35.0%(2014fy)	50.0%	65.0%	—

▶ プラットフォーム会員の実態

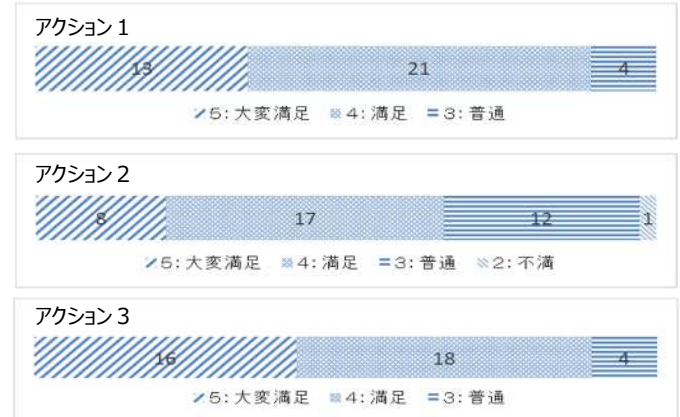
第2期アクションプランの取組内容を検討すべく、会員の皆様の状況を聞き、今後のPF運営や事業の企画の参考とするため、アンケートを実施した。

調査方法:メール 調査時期:2021年6月8日～12日 対象:PF134会員 回答率:28.4% (38会員)

■ 富士市CNF-PF事業や事務局の対応等で、
参画・参加、利活用したい取組



■ アクションプランの取組に対する評価 (満足度)



・「アクション1」「アクション3」の満足度は高い
・「アクション2」は他に比べ、満足度が低い状況

▶ 課題の抽出と整理

時代や社会の潮流・情勢、国や県等の動向、第1期アクションプランの進捗状況、プラットフォーム会員の実態等を踏まえ、第2期アクションプランの策定に向けた課題を抽出し、整理した。

CNF情報の更なる
周知・PRと認知度の向上

シーズとニーズが連携した
ものづくりの加速

素材×出口の組み合わせを生み出す
「オープンイノベーション」の場

第2期アクションプラン (2022～2024年度)

目標

CNFの裾野の拡大とオープンイノベーションによる用途開発の加速化

ターゲット

CNFに関する取組を
実践している企業等

CNFを認知
活用を検討・踏み出せない企業等

CNF自体を知らない・認知
していない企業等

市民や消費者

重点取組

アクション1

アクション2

アクション3

アクション

アクション1 CNFに関する情報の共有と活用

- CNF情報に関する報告書等の紹介・周知
- CNFの先進的な取組や活用等に関する具体的な事例の紹介
- 富士市CNFプラットフォーム活動、会員や地元企業の取組の紹介・発信
- 市民や消費者向けのCNF普及啓発活動

CNFへの取組の
動機付け・エンカレッジ

アクション2 用途開発を加速するマッチングの機会の創出と強化

- 応用分野別や個別の素材シーズに関する勉強会の開催
- 様々な手法と広域的な企業・関係者とのマッチングの開催
- 大学シーズとのマッチング
- CNFを含めたバイオマスマテリアルへの着目

CNFの用途開発を
加速するマッチング

アクション3 「オープンイノベーション」の場の創出と支援

- オープン・クローズ戦略とオープンイノベーションの認知
- オープンイノベーション活動の創出
- ものづくり(価値づくり)に向けたテーマアップ・チームづくり

オープンイノベーション
スタイルによるものづくり

「CNFでつながり ひろがる ものづくりのまち ふじ」を目指し、着実な取組を展開